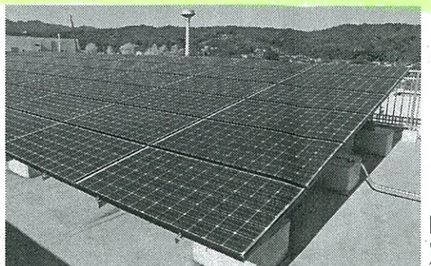
総合・適正処理

スイーピングサービス

CO_2オフセットを継続強化

「環境貢献企業でありたい」


新社屋屋上に設置された太陽光パネル

汚泥の中間処理などを手掛けるスイーピングサービス（東京都あきる野市、田邊昌志社長、☎042・597・6112）は、自社の事業から出るCO_2の全量266㌧をカーボン・オフセット、環境貢献の取り組みを継続、強化する。

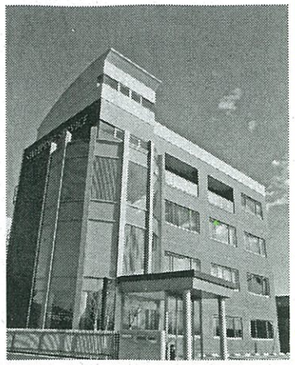
カーボン・オフセットで使用するのは日本政府が主体となって行う国内クレジット制度の排出権で、埼玉県の表面加工印刷工場や全国の住宅で創出されたクレジット。

また、プログラム型排出削減事業により、一般住宅で削減した電力量を集約して創出されたクレジットをあわせて活用する。

排出量は加藤商事（東京都東村山市恩多町、加藤宣行社長）が計測、カーボンフリーコンサルティング（横浜市、中西武志社長）がクレジットの代理償却を行う。

同社がカーボン・オフセットするのは2年目で今年8月から3年目を迎える。同社の田邊社長は「産廃処分業には依然、グレーなイメージがつきまとうが、当社はあくまで環境改善に貢献する企業でありたい。オフセットはそのシンボルと思っている」と語る。

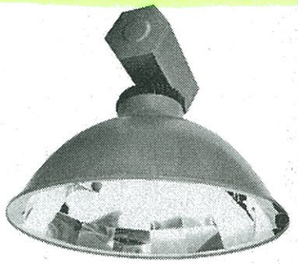
今年4月に完成した本社の新社屋屋上には、太陽光発電システムを設置し、ビルの照明や空調は省エネタイプを導入。また、今年8月CSR事業部を発足させた。これらは地域に根差すための先行投資で、適正処理の徹底とともに幅広く地域社会に貢献する処理企業を目指す。


新社屋も温暖化防止に向け省エネ化

大作商事

長寿命で電気代大幅減

工場などの高天井省エネライト


省エネ照明「iEL」

エコ商品などを取り扱う大作商事（東京・千代田、大作一平社長、☎03・3539・4000）は、工場や倉庫などの高天井に設置されている照明の電気代を大幅にカットし、明るさを確保しながら、まぶしさやギラつき感がない新しい省エネ照明「iEL（インダクションエコライト）」を発売し、順調に売り上げを伸ばしている。

iELは蛍光灯と同じ原理で発光する照明だが、電極やフィラメントがないことから長寿命・省エネで、光の質が良いのが特徴だ。高天井で一般的に使われる水銀灯と比較すると、消費電力は約4分の1。寿命は6―10倍で、瞬時に点灯もできる。同製品は、LED照明にありがちなまぶしさやギラつき感、手元や足元の影、小キズが見えづらいといった欠点もない、先進的な照明だ。

同社によると、工場や倉庫などの導入先からも「明るいのにまぶしくないと好評」としている。導入費用は2―3年で回収が可能で、低い管球温度は夏場の空調負担低減に貢献するという。

12月13日、CFPオフセット・ポイントでセミナー開催

CFPオフセット・ポイント推進委員会は、12月13日午後2時から東京ビッグサイト会議棟6階でCFPオフセット・ポイント制度セミナー「どんどん広げよう！　どんぐりポイントの輪！」を開催する。

同委員会は11月1日から経済産業省の2013年度「見える化」制度連携活性化事業費補助金事業として、カーボンオフセットを普及・促進する「どんぐりポイント制度」を開始している。今回のセミナーは、同制度の認知拡大に向け、概要やメリット、活用方法などについて紹介する。参加費は無料。

記者手帳

問答無用の欠格要件、事前の策を

常々、本紙編集部にはさまざまな問い合わせが寄せられる。先日、本紙7面「マスコミ北から南から」のコーナーに処理業者の役員が道路交通法違反で懲役刑となり、欠格要件に該当したため許可を取り消された内容の要約記事を掲載した。ある読者から、その記事の道交法違反の中身について知りたいとの問い合わせがあった。調べてみると、スピード違反とわかったが、スピード違反で懲役刑になったというのは、にわかに信じがたい。その後、いろいろ聞くと、制限速度を相当上回るスピードを出していたことがわかった。

それにしても、役員のスピード違反で会社の許可取り消しとは信じがたい。取り消された会社の社長や社員の心中が思いやられる。刑が確定する前に役員を辞任すれば許可取り消しを免れることはある。しかし、役員にとっては職を失うのだから簡単な話ではない。

先日開かれた弊社主催「廃棄物ビジネス連続講座」で、欠格要件に詳しいある弁護士は講演の中で「役員が欠格要件に該当しそうになったとき、それを会社に報告しやすい仕組みをあらかじめつくっておくことも大切」と解説した。コンプライアンスを軽視するつもりはないが、欠格要件の厳しさは問答無用であり、リスクマネジメントの意味で事前の策は必要だろう。（文）

中国環境情報フロンティア

ダイオキシン類など分解

日量400tの汚水処理能力

中国各地で、熱分解の廃棄物処理や最終処分場の浸出水などの浄化が進んできた。今回は、南京大学や湖南省などの事例を紹介する。

ごみ熱分解ガス化炉を開発

南京大学

南京大学が手掛けた「ごみ熱分解ガス化炉」プロジェクトでは、6人の専門家の技術鑑定を通し、国際的な先進レベルに達したことを明らかにした。

ガス化炉自体、燃料を加えず、投入したごみは自動的に燃やすことができる。研究チームで10年以上をかけて、開発したもの。

廃棄物の焼却は、ダイオキシン類やその他の汚染物質を排出する可能性がある。この問題に対処するため「ごみ熱分解ガス化炉」を開発した。南京工業大学工程院欧陽教授が語った。

革新的な遅延燃焼技術は、生活ごみの焼却時間を大幅に延ばし、さらに、煙気中の有害な有機化合物を分解するため時間を確保。高温燃焼技術と高度流動燃焼技術は、徹底的に有害な有機化合物を分解する。国家環境分析テストセンターの連続監視データによると、ダイオキシン類やその他の排出量が国家基準以下を達成した。

熱分解ガス化炉は無害化を実現するだけでなく、処理中のエネルギー利用率を国際同級先進技術より10%上げ、熱効エネルギーを30%にした。同技術は、国家発明特許4項、特許11項を獲得。現在では、日量処理300㌧のガス化炉が設置され、別の日量処理1000㌧の装置が北京空港近くで計画されている。

同プロジェクトは国家電力集団と連携で、40件バイオマス発電所を改造する予定で、ごみ焼却部分をわらで発電、大幅に発電コストと汚染物排出を下げて周辺100万―300万人の生活ごみを処理することができる。（中国環境報・10月10日号）

埋立地でごみ浸出水処理

湖南省湘潭市

湖南省湘潭市の双馬ごみ捨て場では、中聯重科衛生機械会社が建造した、初のごみ埋立浸出水処理所が、正式に使用開始した。総投資2772万元（4億4352万円）、日量400㌧の汚水処理能力となる。

従来までは、ごみ埋立浸出水は、専用車両で運送してきた。毎日往復で10回以上。処理システムを使用すると、現場で直接処理することができる。

2012年10月、中聯衛生機械会社が湘潭市双馬ごみ捨て場の浸出水処理プロジェクトの入札に手を入れ、13年4月7日に施設工事、6月中旬に検査を終え、現在処理システムが安定に運行している。

ごみ浸出水処理プロジェクトは、外国技術「外置膜MBR＋DTRO」を導入。リサイクル可能で、国家廃水排出標準2級を達成。湖南省実施十大環境保護プロジェクトの1つとして、湘潭市双馬ごみ捨て場の埋立浸出水処理事業がごみ浸出水環境汚染問題を解決。湖南省生活ごみの無害化処理は、大きな意義をもっている。（中国環境報・10月10日号）

産廃処理担当者の実務を凝縮

ユニバース

ユニバースは、産廃実務担当者向けの書籍「トラブルを防ぐ産廃処理担当者の実務」を発刊した。産廃実務において重要な施設確認、処理委託契約書の記載事項の解説等に続いてマニフェスト運用の留意事項、コストダウンの進め方などを紹介している。

「産廃管理で知っておきたいQ&A」では、「処理委託契約は法人単位で、マニフェスト発行は支店単位で可か」「同一敷地内にグループ会社が複数同居している場合の管理について」などについて解説。各項目に関しても、実務により踏み込んだ内容が収録されている。

巻末には推奨する委託契約書のひな形（収集運搬用・処分用）も添付した。購入者には、オリジナル委託契約書のひな形データ（ワード形式）を要望に応じて提供している。A5版222頁、定価2520円（税込）。問い合わせは（☎03・6809・2581）まで。

CHUWAEIZEN GROUP
管理型品目承ります
燃え殻・汚泥・廃油・ゴムくず・紙くず・木くず・繊維くず・動物性残さ・鉱さい・がれき類・ばいじん・13号廃棄物・廃プラ・ガラスくず・金属くず
以上15種類（石綿含有廃棄物含む）
特別管理産業廃棄物 廃石綿等
お気軽にお問い合わせ下さい
0120-42-0751
中和営繕グループ www.chuwaeizen.co.jp